

「陸上競技研究紀要」第10巻

2015年3月1日発行

発行人 尾縣 貢

発行所 公益財団法人日本陸上競技連盟

〒163-0717 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル17階

TEL : 03-5321-6580

陸上競技研究紀要 第10巻

編集後記

2014年度「陸上競技研究紀要」第10巻をお届けします。本号は、資料3編、「日本陸連科学委員会研究報告」の論文19編、「エキサイティング メディカル レポート」1編、および昨年度からはじまった特集企画の「陸上競技のタレントトランスファー ―ジュニア競技者育成の新たな方向性を求めて―」から構成されています。

残念ながら、今号には原著論文が掲載されませんでした。しかしその代わり、資料が3篇と常にもまして多く掲載されました。しかも、発育段階からエリートレベルまで、3篇とも競技者育成に関連するテーマが扱われていて興味深いところです。さらには、今号の特集企画も「タレントトランスファー」という観点から、競技者育成が多角的に論じられています。

競技者育成論は、永遠のテーマです。古今東西、多くの論文が報告され、また一般書籍でもベストセラー本がいくつも出版されるなど賑わっています。ところで、臨床心理学者の河合隼雄はこんなことを言っています（「子どもと学校」岩波新書、1992）。『教育の「育」という語は、他動詞にも自動詞にも用いられる。教育では、ともすると「育てる」ことに重点が置かれるが、「育つ」ことの重要性をもっと認識すべきでは…。』といった趣旨のことです。主語が教師ではなく生徒に、と言うことでしょうか。競技者育成なら、育成する側の指導者や競技団体が主語になる立場だけでなく、競技者が主語になる視点が大切だということになるでしょう。思えば、トランスファー・プログラムでは競技者自身が否応なく主語にならざるを得ない状況がつけられるのかも知れません。「育成」という字を見て、ふとそんなことを考えました。

2015年3月1日

文責 伊藤静夫

陸上競技研究紀要第10巻 編集委員会
伊藤静夫（編集委員長）、榎本靖士（編集副委員長）、
高松潤二、森丘保典、青山清英、高橋義雄、桜井智野風、安井年文、眞鍋芳明
（日本陸上競技連盟・事務局）三宅聡、森谷真咲、畔蒜洋平